

個人質問

ヒブワクチン接種への助成制度
介護家庭への支援、交通安全問題を問う

公明党 新宅 雅子



子どもの健康について

問 ヒブワクチンを接種すれば、細菌性髄膜炎は完全に防げる。現在133カ国で導入されているが、日本では今年1月、国の承認を受けたばかりで、日本の予防接種体制は大きく遅れをとっている。子どもの命を救うため、ヒブワクチン接種は喫緊の課題である。ワクチン接種の助成を求めるが如何か。

市長 市が行う予防接種については、麻しん撲滅に向けて、麻しん風しん予防接種の接種率100パーセント達成を目標として接種を進めています。また、日本脳炎についても4年間の積極的勧奨見合わせの後、今年6月に新ワクチンが認可されたところであり、まずはポリオやBCG及び3種混合等とともに定期予防接種を推進しているところであります。現在、ヒブワクチン接種に対する助成は考えていません。

介護について

問 家族を介護する人への支援にはどのようなものがあるのか。また、介護する人へのさらなる支援の充実を求めるが如何か。

市長 介護保険によるサービスは、介護を要すると認定された方へのサービスであり、介護をする家族に直接サービスを提供するものではありませんが、各種のサービスが介護保険サービス事業所によって提供されることにより、介護する家族への支援につながっているものと考えています。また、市社会福祉協議会では、平成4年度より介護者の集いを開催しており、現在は年6回、市内の介護保険施設の協力も得ながら開催し、介護家族の息抜きのひとときになつていと聞いています。今後とも介護保険サービスの充実にも努めながら、家族に介護が必要になった場合でも、介護する家族に過度

道路整備について

問 本年度の本市の信号機整備予定について伺う。また、立体減速シートの設置は検討されたのかどうか伺う。

市長 平成21年2月26日付けで佐倉警察署に新設29カ所、押しボタン式等からの変更10カ所、移設1カ所を再度要望しており、これらの要望箇所のうち、国道409号の木原入口交差点の信号機移設、並びに市道115号線と216号線の交差点改良と信号機新設が、それぞれ同時施工で進むよう、県警本部と協議を続けています。また、立体減速シートについては、今年度中に数カ所整備をしたいと考えています。

公共事業残土について

問 市の各事業から出る残土処理の法的根拠について伺う。

市長 廃棄物処理法は適用されませんが、市が公共残土を処理する場合は、次の3つの手法から選択しています。第1は、農地を一時お預かりして農地造成により処分する方法。第2は、市の最終処分場で覆土として利用する方法。第3は、山田台の残土置場に一時仮置きする方法です。

個人質問

「八街大清水に」公共残土埋め立て問題

桜田 秀雄



「八街大清水に」公共残土埋め立て問題

問 可申請はありませんが、開発行為については、事前協議申請が提出されています。

建設部長 事前協議が整備、本申請となります。その後は知事の判断となります。残土条例の中に、事業終了後、何年間は耕作をするといった内容の条文はないのか伺う。

建設部長 法的な規制等はないと思われませんが、行政指導としてはあると思います。

問 公共残土も立派な資源であり、残土リサイクル条例を制定し、有効利用を図っては如何か。

市長 残土条例の定めに従い適正処理を行っており、現状のままでは問題はないと考えています。

市長の政治姿勢について

問 教育委員会は独立機関であり、議会答弁において、市長の「教育長に答弁させます」

市長 これからの季節、市開催の各種事業や各地区で祭礼など大勢の市民が集まる機会が多くなります。感染状況等を把握し、それぞれの関係機関の判断により、事業実施の可否や事業の見直しを行い、対応します。

「八街大清水に」公共残土埋め立て問題

問 市が公共残土を処理する場合は、次の3つの手法から選択しています。第1は、農地を一時お預かりして農地造成により処分する方法。第2は、市の最終処分場で覆土として利用する方法。第3は、山田台の残土置場に一時仮置きする方法です。

市長 当初予定よりランクを下げて契約をしました。

「八街大清水に」公共残土埋め立て問題

問 秋祭りなどで感染拡大が見込まれる。市民を守るための対策を伺う。

市長 秋祭りなどで感染拡大が見込まれる。市民を守るための対策を伺う。

「八街大清水に」公共残土埋め立て問題

市長 秋祭りなどで感染拡大が見込まれる。市民を守るための対策を伺う。

市長 秋祭りなどで感染拡大が見込まれる。市民を守るための対策を伺う。

